

① 申請者	◎北九州市 下関市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	--------------	-------	--------------------------

③ タイトル

関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～

④ ストーリーの概要（200字程度）

古来より陸上・海上交通の要衝であった関門地域は、幕末の下関戦争を契機とした下関・門司両港の開港以降、海峡の出入口には双子の洋式灯台が設置され、沿岸部には重厚な近代建築が続々と建設された。

狭隘な海峡を外国船が行き交う景観の中、日本が近代国家建設へ向け躍動した時代のレトロな建造物群が、時間が停止したかのように現在も残されている。渡船や海底トンネルを使って兩岸を巡れば、まるで映画のワンシーンに紛れ込んだような、ノスタルジックな街並みに出会うことができる。



夜の門司港の景観



関門鉄道トンネル

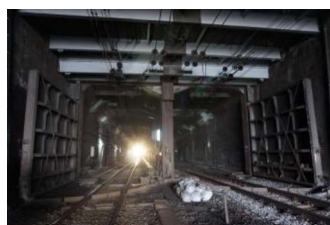
(上：内部、下：門司側入口)



南部町郵便局と旧秋田商会ビル

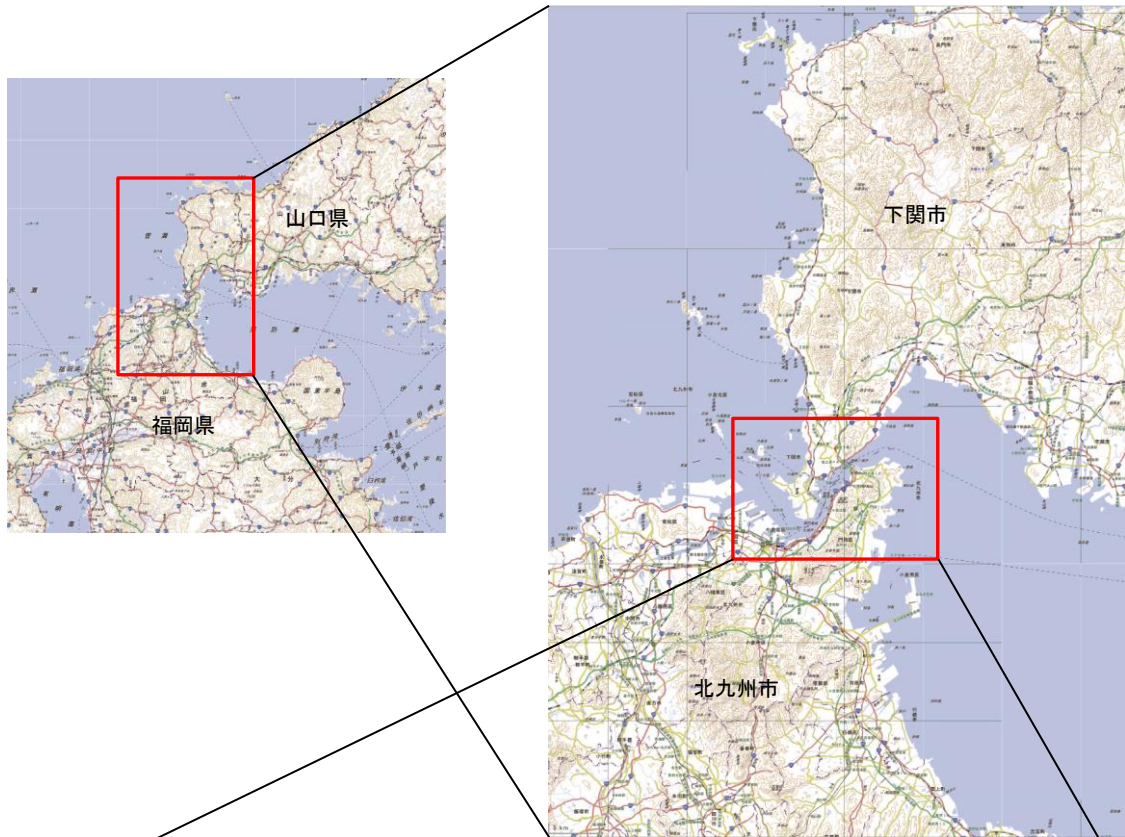


門司港駅（重要文化財）



旧下関英国領事館（重要文化財）

市町村の位置図 (地図等)



構成文化財の位置図 (地図等)



エリア①



エリア②



エリア③



## ストーリー

関門地域を空から見下ろすと、本州と九州とが互いに手を伸ばし、今にも陸続きになりそうな地形が目に入ります。海峡を挟んだ両岸からは、山々が海にせり出すように対峙し、そこからは大型のタンカーや旅客船が途切れることなく往来する海峡景観とレトロな近代建築が建ち並ぶ街並みを望むことができます。

関門海峡沿岸は、明治から昭和初期にかけて共に急速な発展を遂げ、当時最先端の意匠と技術で建てられた近代建築が現代の街並みの中で大切に残されています。密接な交通網で結びついた海峡両岸の港町は、渡船や海底トンネルを使って気軽に巡ることができます。

### ●関門海峡の歴史地理的位置

古代以来、官道や主要な街道は関門の地で結びつき、多くの人や物資の交流が行われてきました。瀬戸内海と日本海との結節点でもある関門海峡は、陸路と海路の十字路を形成し、幕末には外交や通商を迫るため、西洋諸国の黒船も通過するようになります。

その重要性を理解していた長州藩の志士は、海峡を封鎖し攘夷を実行しました。これを契機に下関戦争が起こり、日本が開国へと舵を切り、歴史の潮流を変えるターニングポイントとなったのです。

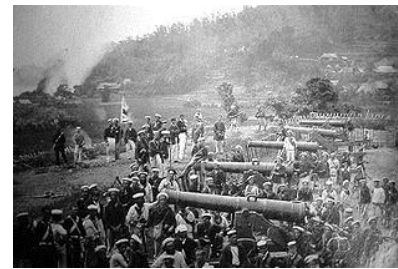
### ●国際港湾都市「関門港」の開港と発展

下関戦争で大敗した長州藩は、元治元（1864）年、講和使節に高杉晋作を任命して講和を成立させ、下関港は事実上、開港しました。

海外との玄関口となった関門海峡には、幕府が英国との間で締結した大坂条約（慶応3=1867年）により洋式灯台が設置されることになりました。ブラントン率いる英国人技術者集団が海峡西側の六連島灯台と東側の部埼灯台を設計し、ともに1872年に初点灯され、日本の文明開化と関門海峡を照らし始めたのです。この双子の洋式灯台の灯に導かれて、江戸時代から北前船の寄港地であった下関港と、背後に筑豊炭田という石炭の一大供給地と若松という石炭中継地を抱えた門司港は、共に特別輸出港や大陸との定期航路の寄港地に指定され、国際港湾都市として一躍注目を集めることとなります。そのきっかけは、明治8年（1875）の横浜・神戸 - 上海間定期航路の就航であり、



空から見た関門海峡



下関戦争によって占拠された  
長州藩前田砲台



むつれしま  
六連島灯台（上）と  
へさきま  
部埼灯台（下）



旧下関英国領事館

その後、朝鮮との貿易港指定を契機に、創業間もない大阪商船株式会社や日本郵船株式会社が進出しました。明治22年(1889)には九州鉄道の開通にともなって門司駅(現門司港駅)が設置され、陸上と海上運輸の集散地として賑わうようになります。

関門地域の国際的な重要性を逸早く見出した駐日英国公使アーネスト・サトウの提案により、明治34年(1901)、下関に英国領事館が開設され、その5年後には煉瓦造の下関英国領事館が建てられます。これをきっかけに、明治後期から大正にかけて日本銀行をはじめとする金融、三菱や三井などの商社、鈴木商店の資本による食品工場群などの拠点が続々と関門海峡沿いに開設され、重厚な構造かつ当時最先端の意匠をもった近代建築が林立する街並みが形成されていきました。

また、この地域では、伊藤博文が春帆楼においてフグ食を解禁して以来、フグ刺しや鍋、唐揚げ、白子、鱈酒など様々なフグの食べ方を通して地元では幸福をもたらす「ふく」料理と呼ばれて親しまれているほか、海外航路の拡大に伴い、台湾から大量に輸入されたバナナの叩き売りはこの地域の名物となり、現代に伝えられています。

### ●「海峡七路」の完成

昭和に入り、海峡の両岸を海底で結ぶ関門鉄道トンネルの建設が計画され、昭和17年(1942)に下り線が、同19年(1944)年に上り線が開通します。この世界最初の海底トンネルの完成により、文字どおり「関門」として立ち塞がっていた海峡が、陸路によって突破されました。その後、車道・人道トンネルの開通、さらに関門橋の架橋により、関門海峡に「かいきょうしちろ海峡七路」と称される多様な交通網が完成します。それまで陸上と海上交通の結節点としての役割を担ってきた関門地域は、本州-九州間の通過点となり、明治から昭和初期にかけての重厚な近代建築群がまるで時が止まったかのように残ることになりました。

### ●関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～

関門海峡には、外国船がもたらした舶来文化が根付き、狭い海峡を外国船が行き交う景観の中に、日本が近代国家建設へ向け躍動した時代のレトロな建造物群が現在も大切に残されています。

「海峡七路」を使って両岸を巡れば、まるで映画のワンシーンに紛れ込んだような、ノスタルジックな街並みに出会うことができます。



旧サッポロビール九州工場醸造棟



北九州市旧大阪商船



ふくの薄造り(上)と  
バナナのたたき売り(下)



下関市唐戸地区の街並み

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地(※4)
1	むつれじまとうだい 六連島灯台	市有形文化財 (建造物)	大坂条約の約定に基づき関門海峡西端に設置された洋式灯台で、「お雇い外国人技師」R. H. ブラントン設計。白御影石造。旧暦明治4年11月(西暦1872年1月)初点灯。	山口県 下関市
2	へさきとうだい 部埼灯台	未指定 (建造物)	旧暦明治5年1月(西暦1872年3月)初点灯。関門海峡東端に設置された六連島灯台とほぼ同設計、同時期に設置された双子灯台。	福岡県 北九州市
3	きゅうしゅうてつどうきねんかん 九州鉄道記念館 きゅうきゅうしゅうてつどうほんしゃ (旧九州鉄道本社)	国登録 (建造物)	明治21年(1888)設立された九州鉄道本社屋。明治24年(1891)竣工。石炭産出地筑豊と門司港を繋ぐ輸送手段として港湾と連携して発展した。	福岡県 北九州市
4	しものせきなべちようゆうびんきょくちようしゃ 下関南部町郵便局庁舎 きゅうあかまがせきゆうびんでんしんきょく (旧赤間関郵便電信局)	国登録 (建造物)	現存最古の現役郵便局舎。煉瓦造2階建。明治33年(1900)竣工。金融業とともにいち早く整備された通信事業を語る施設。	山口県 下関市
5	せきたんかいかん 石炭会館	未指定 (建造物)	若松石炭商同業組合の事務所として建設された、当時最新式の洋風建築。明治38年(1905)竣工。木造2階建。平坦な壁面は目地を多用し、石造風の表情が与えられている。石炭積み出しに港若松の歴史を象徴する建物。	福岡県 北九州市
6	きゅうしものせきえいこくりょうじかん 旧下関英国領事館	国重要文化財 (建造物)	下関に設置された英国領事館施設として、明治39年(1906)に建設された煉瓦造の建物。	山口県 下関市
7	きゅうみやざきしょうかん 旧宮崎商館	国登録 (建造物)	石炭輸出業を営む宮崎儀一が事務所として建てた商館。煉瓦造2階建。明治40年(1907)竣工。	山口県 下関市
8	きゅうもじぜいかん 旧門司税関	未指定 (建造物)	門司税関発足を機に、明治45年(1912)に建設された税関庁舎。昭和初期まで税関庁舎として使用。	福岡県 北九州市
9	きゅう 旧サッポロビール九州工場 じむしょとう じょうぞうとう くみあいとう そうご 事務所棟、醸造棟、組合棟、倉庫	国登録 (建造物)	明治45年(1912)設立の「帝国麦酒株式会社」の工場施設。門司大里地区の保税機能を持つ食品加工工場群の代表的施設。事務所棟、醸造棟は大正2年(1913)竣工。	福岡県 北九州市

10	<p>うえの 上野ビル きゅうみつびしごうしがいいしやわかまつしてん (旧三菱合資会社若松支店) ほんかん そうごとう きゅうぶんせきしつ 本館、倉庫棟、旧分析室ほか</p>	国登録 (建造物)	筑豊からの石炭販売、運送業を担った三菱合資会社の社屋。本館は煉瓦造3階建。倉庫棟は煉瓦造2階建。旧分析室は木造平屋建。大正2年(1913)竣工。	福岡県 北九州市
11	<p>もじこうえき きゅうもじえき ほんや 門司港駅(旧門司駅)本屋</p>	国重要文化財 (建造物)	九州鉄道の起点として明治24年(1891)に開業した門司駅の2代目駅舎。木造モルタル塗2階建。大正3年(1914)竣工。	福岡県 北九州市
12	<p>きゅうあきたしょうかい 旧秋田商会ビル しものせきかんこうじょうほう (下関観光情報センター)</p>	市有形文化財 (建造物)	木材や食料、薪炭などを海外に輸出する商社の社屋兼住居。ドーム形屋根を持つ塔屋及び屋上庭園が特徴。大正4年(1915)竣工。	山口県 下関市
13	<p>みつびしじゅうこうぎょうかぶしきがいしゃ 三菱重工業株式会社 しものせきぞうせんしよ 下関造船所 だい だい 第3ドック、第4ドック</p>	未指定 (建造物)	大正3年(1914)山口県下関市彦島に設立した造船所。第3ドックは大正11年(1922)竣工の石造。第4ドックは大正5年(1916)竣工のコンクリート造。	山口県 下関市
14	<p>きたきゅうしゅうしきゅうおおさかしょうせん 北九州市旧大阪商船</p>	国登録 (建造物)	門司港を大陸航路の拠点とした大阪商船の社屋。煉瓦枠コンクリート造3階建。大正6年(1917)竣工。	福岡県 北九州市
15	<p>りょうていきんなべほんかん おもてもん 料亭金鍋本館、表門</p>	国登録 (建造物)	港湾と鉄道整備に伴って拡大した若松の市街地において、明治、大正期から営業していた多くの料亭の中でも著名な店の一つ。経済人や文化人が集った場所として広く知られる。本館は木造3階建。大正6年頃(1917)竣工。	福岡県 北九州市
16	<p>きゅうふるかわこうぎょうわかまつ 旧古河鉱業若松ビル</p>	国登録 (建造物)	筑豊炭田で産出された石炭の中継地として活況を呈した若松を代表する洋風建築物。煉瓦造2階建。大正8年(1919)竣工。	福岡県 北九州市
17	<p>とちき 栃木ビル</p>	未指定 (建造物)	造船と船舶代理業を行う栃木商事の本社ビル。当時としては珍しい半地下室、自家用浄化槽等を備える鉄筋コンクリート造3階建。大正9年(1920)竣工。	福岡県 北九州市
18	<p>やまぐちぎんこうきゅうほんてん 山口銀行旧本店</p>	県有形文化財 (建造物)	明治9年(1876)関門地域に進出した三井銀行下関支店。昭和8年(1933)の百十銀行本店を経て、19年(1944)～40年(1965)まで山口銀行本店として使用された。コンクリート造2階建。大正9年(1920)竣工。	山口県 下関市
19	<p>きゅうかねの つるみさきとうだい 旧金ノ弦岬灯台</p>	市有形文化財 (建造物)	明治4年(1871)に設置された関門海峡の礁標を移築した灯台。石造。大正9年(1920)竣工。平成12年(2000)に廃止されるまで、関門航路を照らした。	山口県 下関市

20	きゅうもじみついくらぶほんかんふぞくや 旧門司三井倶楽部 本館、附属屋	国重要文化財 (建造物)	門司に進出した商社、三井物産門司支店が接客、宿泊用に建設した施設。木造2階建。大正10年(1921)竣工。大正期の近代化を示す建物。	福岡県 北九州市
21	いわたけじゅうたくおもやどぞう 岩田家住宅 主屋、土蔵	市有形文化財 (建造物)	岩田家は、明治32年(1899)から門司港地区で酒類販売を行った。木造2階建。大正10年(1921)上棟。	福岡県 北九州市
22	きゅうていしんしょうしものせきゆうびんきょくでんわかちょうしゃ 旧通信省下関郵便局電話課庁舎 しものせきしりつきんだいせんじんけんしょうかんだななきぬよかん (下関市立近代先人顕彰館田中絹代ぶんか館)	市有形文化財 (建造物)	大正中期から後期にかけて急増した通信需要に応えるため、下関に設置された郵便局電話課の庁舎。鉄筋コンクリート造3階建。大正13年(1924)竣工。	山口県 下関市
23	もじこうじょうせいぞうじょう ニッカウキスキー(株)門司工場製造場 きゅうだいにりしゅせいせいぞうじょう (旧大里酒精製造所 製造場)	未指定 (建造物)	鈴木商店資本の食品工場群を構成した酒類製造工場施設の一部。煉瓦造平屋建。大正14年(1925)竣工。	福岡県 北九州市
24	もじこうじょうそうこ ニッカウキスキー(株)門司工場 倉庫 きゅうだいにりせいふんしよ (旧大里製粉所 倉庫)	未指定 (建造物)	鈴木商店が明治の末に起業し、大正期を通じて操業した製粉工場倉庫。煉瓦造平屋建。	福岡県 北九州市
25	はちや 蜂谷ビル きゅうとうようほげいかぶしきがいしやしものせきしてん (旧東洋捕鯨株式会社下関支店)	国登録 (建造物)	日本の捕鯨事業の中核を担った東洋捕鯨株式会社下関支店の社屋。煉瓦造2階建。大正15年(1926)竣工。	山口県 下関市
26	もじゆうせん 門司郵船ビル にほんゆうせんもじしてん (日本郵船門司支店)	未指定 (建造物)	門司港駅(旧門司駅)の正面に位置し、鉄道と運輸が直結した立地にある日本郵船門司支店ビル。鉄筋コンクリート造4階建。昭和2年(1927)竣工	福岡県 北九州市
27	きゅうだいにれんこうろうわや 旧大連航路上屋	未指定 (建造物)	中国・大連をはじめ、世界を結ぶ航路の中核として、建てられた国際旅客ターミナル。昭和4年(1929)竣工。	福岡県 北九州市
28	もじくやくしよ 門司区役所 きゅうもじしやくしよ (旧門司市役所)	国登録 (建造物)	門司港と門司港駅を見下ろす丘の上に立つ旧門司市庁舎。近代的な外観デザインを有し、関門港の発展を見守ってきた「モダンな庁舎」鉄筋コンクリート造3階建。昭和5年(1930)竣工。	福岡県 北九州市
29	かんもん 関門ビル きゅうかんもんきせんかぶしきがいしや (旧関門汽船株式会社)	未指定 (建造物)	門司港―唐戸間の連絡船などを運航する関門汽船が建設した、数少ない戦前の事務所ビル。鉄筋コンクリート造5階建。昭和6年(1931)竣工。	山口県 下関市
30	さんきろう 三宜楼	未指定 (建造物)	経済発展を遂げた関門港を代表する大型料亭。現存九州最大の木造3階建。昭和6年(1931)竣工。	福岡県 北九州市
31	ちゅうごくろうどうきんこしものせきしてん 中国労働金庫下関支店 きゅうふどうちよきんぎんこうしものせきしてん (旧不動貯金銀行下関支店)	未指定 (建造物)	下関側の銀行街に建てられた、画期的な免震基礎を持つ旧不動貯金銀行下関支店。鉄筋コンクリート3階建。昭和9年(1934)竣工。	山口県 下関市

32	きたきゅうしゅうぎんこう も じ してん 北九州銀行門司支店 きゅうよこはましゅうぎんこう も じ してん (旧 横浜正金銀行門司支店)	未指定 (建造物)	貿易融資や外国為替を専門に扱った横浜正金銀行の支店。鉄筋コンクリート造 2 階建。昭和 9 年 (1934) 竣工。	福岡県 北九州市
33	ふじわらよしえきねんかん 藤原義江記念館 きゅう てい (旧 リンガー邸)	国登録 (建造物)	明治 23 年 (1890) 頃から進出した外国系商社ホーム・リング商会の代理店である瓜生商会在、支配人子息、M・リンガーのために海峡を一望する高台に建てた住宅。一時英国領事の住居としても利用された。鉄筋コンクリート造 3 階建。昭和 11 年 (1936) 竣工。	山口県 下関市
34	きゅう きゅうしゅうほんしゃ 旧 J R 九州 本社ビル	未指定 (建造物)	門司港に進出した三井物産の三代目にあたるオフィスビル。門司における近代化のプロセスを示す合理主義に基づいた建造物。昭和 12 年 (1937) 竣工。	福岡県 北九州市
35	にっしんこうわきねんかん 日清講和記念館	国登録 (建造物)	明治 28 年 (1895) の日清講和会議の舞台となった春帆楼の敷地に建つ記念館。講和会議の関係資料を展示する。昭和 12 年 (1937) 竣工。	山口県 下関市
36	かんもんずいどう 関門隧道下り線 かんもんずいどう 関門隧道上り線	未指定 (建造物)	下り線は昭和 17 年 (1942)、上り線は昭和 19 年 (1944) に開通した世界初の海底鉄道トンネル。海底トンネルの開通で初めて下関と門司が地続きとなった。「海峡七路」の先駆け。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市
37	せかいへいわ 世界平和パゴダ	未指定 (建造物)	昭和 33 年、国内唯一の本格的ミャンマー式寺院として門司の和布刈公園内に建立。国際都市門司の地で日本とミャンマーの親善を記念する建造物として、地域のランドマークとなっている。	福岡県 北九州市
38	しょうかい ホーム・リング商会	未指定 (建造物)	下関の瓜生商会在が代理店を務めたホーム・リング商会在の社名を継ぎ、昭和 26 年 (1951) に設立した船舶関係の代理店事務所。昭和 37 年 (1962) 竣工。	福岡県 北九州市
39	しものせきえき しんれい 下関駅の振鈴	未指定 (有形民俗)	下関駅の前身となる、明治 34 年 (1901) の山陽鉄道馬関駅の開業当初から、振鈴が鳴り響き、列車の発着を知らせた。下関駅の振鈴は、現代にその音色を伝える数少ない例で、現存最古級。	山口県 下関市
40	たた う バナナの叩き売り	未指定 (無形民俗)	日本郵船による台湾航路が確立したことにより、安定して大量のバナナが関門港に輸入されるようになった。軽妙な売り口上による、露天取引は、「バナナの叩き売り」として定着し、現在も、関門の風物詩となっている。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市

41	りょうり フグ料理	未指定 (無形民俗)	伊藤博文が明治 21 年 (1888) にフグ食を解禁して以来、地域の近代化とともに、郷土の代表的味覚として、多様な食文化を形づくっている。また、素材のフグは、地元では「福」に通じる「ふく」と呼ばれ、親しまれる存在となっている。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市
42	ちょうしゅうはんしものせきま えだ だ い ば あ と 長州藩下関前田台場跡	国史跡	元治元年 (1864) の下関戦争で四国連合艦隊陸戦隊に占拠された砲台跡。従軍写真家により撮影された写真に基づくイラストとともに、広く海外に報道され、近代化へのターニングポイントとなった。	山口県 下関市

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文 (工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧

1 六連島灯台



4 下関南部町郵便局庁舎  
(旧赤間関郵便電信局)



2 部埼灯台



5 石炭会館



3 九州鉄道記念館  
(旧九州鉄道本社)



6 旧下関英国領事館



7 旧宮崎商館



10 上野ビル (旧三菱合資会社若松支店)



8 旧門司税関



11 門司港駅 (旧門司駅) 本屋



9 旧サッポロビール九州工場  
事務所棟、醸造棟、組合棟、倉庫



12 旧秋田商会ビル  
(下関観光情報センター)



13 三菱重工業株式会社下関造船所  
第3ドック、第4ドック



16 旧古河鉱業若松ビル



14 北九州市旧大阪商船



17 朽木ビル



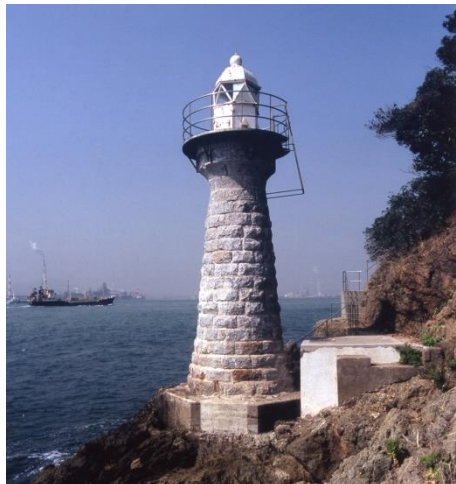
15 料亭金鍋本館、表門



18 山口銀行旧本店



19 旧金ノ弦岬灯台



22 旧逓信省下関郵便局電話課庁舎  
(下関市立近代先人顕彰館田中絹代ぶんか館)



20 旧門司三井倶楽部 本館、附属屋



23 ニッカウキスキー(株)門司工場 製造場  
(旧大里酒精製造所 製造場)



21 岩田家住宅 主屋、土蔵



24 ニッカウキスキー(株)門司工場 倉庫  
(旧大里製粉所倉庫)



25 蜂谷ビル  
(旧東洋捕鯨株式会社下関支店)



28 門司区役所 (旧門司市役所)



26 門司郵船ビル  
(日本郵船門司支店)



29 関門ビル  
(旧関門汽船株式会社)



27 旧大連航路上屋



30 三宜楼



31 中国労働金庫下関支店  
(旧不動貯金銀行下関支店)



34 旧 J R 九州本社ビル



32 北九州銀行門司支店  
(旧横浜正金銀行門司支店)



35 日清講和記念館



33 藤原義江記念館  
(旧リンガー邸)



36 関門隧道下り線  
関門隧道上り線



37 世界平和パゴダ



40 バナナの叩き売り



38 ホーム・リンガー商会



41 フグ料理



39 下関駅の振鈴



42 長州藩下関前田台場跡



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

日本遺産の認定を契機に、多くの歴史的な建造物や、数々の映像作品の舞台にもなっている街並み、昼と夜とで違った顔を見せるノスタルジックな関門海峡の景観などの資源を有機的に連結させることにより、時間をかけてまるごと海峡を楽しんでいただける観光地となっている。

さらに、関門両地域には、鉄道、道路、船舶、人道トンネル等の様々な交通手段が存在するため、多様な交通手段の存在が効果的に情報発信されることにより、多くの観光客が手軽に海峡の往来を楽しんでいる。

そして、関門海峡地域が、歴史的に価値のある文化財や景観を多数有するノスタルジックな空間であり、豊富な交通手段もあるため、その空間を自由に回遊できる地域であるとの評価を世界的に獲得し、長時間楽しむことが可能な滞在型、着地型の観光地の代表格となっている。

## (2) 地域活性化のための取組の概要

## ①「画になる」ノスタルジックな街並みの地域としての関門海峡の地域ブランドを構築し、地域の魅力を発信する。

関門海峡地域には、多くの歴史的建造物、レトロな街並みや、海峡特有の風光明媚な景観、豊富な交通手段等の優れた地域資源が点在するため、それらの連携を図ることにより、長時間滞在・周遊型・着地型の観光地としての地域のブランドイメージを醸成し、地域全体の魅力を向上させる。

また、ロケ地として数々の映像作品に登場する関門海峡地域としてのブランドイメージも発信する。

情報発信の方策として、パンフレットやホームページの作成、パワーブロガー等を含めたプレスツアーの実施、ガイドンス設備の整備等も含めた積極的な情報発信にかかる事業を行う。

さらに、国の地方創生推進交付金を活用した施策として、関門地域全体の魅力向上のために、海外映画・テレビドラマの誘致やロケツアーリズムの推進、ライトアップの充実による夜景景観の整備やプロジェクションマッピングの実施、クルーズ船寄港時の歓迎セレモニーの実施、多言語スマホアプリの開発等を行っていく。

## ②日本遺産のストーリーを軸として、地域が一体となるまちづくりを推進する。

関門海峡地域を「時の停車場」として、住民、事業者、行政が関門海峡地域は一体の文化圏であるとの認識を深め、地域が一体となってまちづくりを推進できるように、日本遺産「関門ノスタルジック海峡」活用推進協議会によるまちづくりを推進するとともに、文化観光ガイド等の地域活性化に資する人材の育成や、育成した人材を活用したバスツアーの実施等を推進する。

また、各種媒体（新聞、雑誌、HP、SNS等）における関門海峡関係のマーケティング調査等を実施し、地域の客観的な状態を把握し、目指すべき将来像に向けての地域の取組みの方策を検討、実行する。

## ③国指定重要文化財建造物等の整備活用を行い、文化財の価値の理解と魅力の向上を図る。

構成文化財となっている国指定重要文化財建造物等について、保存整備工事等を行うとともに、VR等の技術を用いた整備活用を実施し、構成文化財の価値の理解と魅力の向上を図り、地域の文化を誇りに思う”シビックプライド”の醸成や、更なる観光客の獲得を図る。

## ④市域を越えた人やモノの交流を活性化させる。

関門海峡地域の構成文化財等を有機的に結びつけ、女子旅、夫婦ふたり旅、家族旅行などの多様なターゲットのニーズを満足させる周遊ルートを形成し、パンフレットやホームページ等で紹介し、来訪者や地域住民を相互で周遊させる。

また、それに加え、フィルムコンテストの開催等のイベント等を通じた、住民間の文化・教育等の分野の交流を図っていく。

## ⑤地域の名物料理等の振興と、それを活かした観光振興を図る。

観光地としての更なる魅力を向上を図り、長時間の滞在を誘引するためにはご当地グルメの充実が欠かせないため、バナナの叩き売りにちなんだ「バナナ」と、ふく料理にちなんだ「ふく（ふぐ）」について、日本遺産のストーリーに合わせた情報発信を行い、これを観光資源として活用する。

## ⑥訪日外国人が周遊しやすい環境を整備する。

訪日外国人向けにも効果的に、日本遺産「関門ノスタルジック海峡」の情報を発信するため、新たに整備する日本遺産のホームページ等について、多言語（6言語：日本語、英語、中国語[簡体、繁体]韓国語、タイ語）での整備を実施する等、訪日外国人をターゲットにした施策を実施する。

**(3) 自立的・継続的な取組**

- ・各種パンフレットに地元企業の広告等を掲載し、経費として確保する。
- ・フィルムコンテストについては、各種関係企業からの協賛金や広告収入を運営経費として確保する。
- ・フィルムコンテストの映像作品を動画投稿サイトに投稿する際に、映像作品の中に地元事業の広告を入れることによって得られる広告収入等を運営経費として確保する。
- ・新たな収益源の確保を目指し、自立・自走する方策を検討するためのマーケティング調査等を実施する。

**(4) 実施体制**

- ・協議会の名称 日本遺産「関門ノスタルジック海峡」活用推進協議会
- ・構成団体  
北九州市：文化企画課、観光課、門司港レトロ課、北九州市立自然史・歴史博物館、区画整理課  
下関市：文化財保護課、観光政策課、観光施設課、下関市立歴史博物館  
民間：西部地区まちづくり協議会、中東地区まちづくり協議会、長府地区まちづくり協議会 等
- ・総合プロデューサー：日本遺産プロデューサー派遣事業を活用（年2回）
- ・オブザーバー（参考人：要所で招聘し意見を聴取）  
商工会議所、観光協会、コンベンション協会、宿泊・飲食業組合、公共交通機関、旅行会社等の団体

日本遺産プロデューサー派遣制度を活用し、地域としての日本遺産の普及・活用に係る手法等を推進するリーダーとしての知識や理論を全体で共有し、体得する。  
その上で、まちづくり協議会等の民間の構成団体が、地域の将来像のあり方についての総合プロデュースを行うことができるよう、自立・自走を目指した調査等を実施する。  
また、行政機関が、それを実現するための新たな構成員の獲得や、各種事業の実施体制の調整を行う等の支援を行うことにより、日本遺産を軸にした地域住民主体の地域活性化を推進する体制を構築する。

**(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果**

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：日本遺産認定ストーリーを用いて国内外に関門海峡の魅力を発信することにより、滞在型の観光地として宿泊を伴う観光客の誘致による経済的効果が期待できる。  
また、市民に対してもストーリーを広く周知することにより郷土の文化を誇りに思う”シビックプライド”の醸成に寄与するほか、関門地域全体が連携し、一体となったまちづくりの推進が期待できる。

**(6) 日本遺産魅力発信推進事業**

別紙②のとおり

補助金額：	平成29年度：	60,000千円	平成30年度：	50,000千円	平成31年度：	31,000千円
-------	---------	----------	---------	----------	---------	----------

**(7) その他事業**

別紙③のとおり

## (5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ :	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標 :	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標 :	北九州市・下関市の観光客数		
目標値 :	平成 28 年度	1,838 万人	⇒ 平成 34 年度 2,326 万人
設定根拠 :	毎年の増加率を、過去3年間の平均増加率(1.7%)の2倍以上(4%)として目標設定。		
設定目標Ⅰ :	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標 :	宿泊者数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標 :	北九州市・下関市の宿泊者数		
目標値 :	平成 28 年度	252 万人	⇒ 平成 34 年度 318 万人
設定根拠 :	毎年の増加率を、観光客数の増加率(過去3年間の平均増加率(1.7%)の2倍以上)と同じ4%として目標設定。		
設定目標Ⅱ :	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標 :	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標 :	小中学生等へのアンケート調査による「地域の文化に愛着を感じる」の割合		
目標値 :	平成 29 年度	100 %	⇒ 平成 34 年度 116 %
設定根拠 :	平成29年度に初回調査を実施し、平成29年度数値を100%として、毎年3%の上昇を設定		
設定目標Ⅲ :	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標 :	日本遺産への協力団体数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標 :	パンフレット(広告)、ホームページ(バナー広告)、アップロードした動画にかかる広告協賛企業数		
目標値 :	平成 29 年度	10 社	⇒ 平成 34 年度 35 社
設定根拠 :	平成29年度は10社を見込み、その後1年間に5社ずつ増加と設定		
設定目標Ⅲ :	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標 :	パンフレット(広告)、ホームページ(バナー広告)、アップロードした動画にかかる広告等の協賛金額		
目標値 :	平成 29 年度	100,000 円	⇒ 平成 34 年度 500,000 円
設定根拠 :	平成29年度は10社で各10,000円を見込み、その後1年間に5社ずつ増加、また広告・協賛金の単価の若干の増額を見込んだ。		

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	日本遺産パンフレット等の配布媒体による情報発信事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度
補助金額:	平成29年度: 8,000千円	平成30年度: 5,000千円	平成31年度: 0千円
(積算)	作成業務委託 8,000千円 (日本語: 3万部)	多言語作成業務委託 5,000千円 (5ヶ国語: 各5,000部)	
事業概要:	パンフレットやチラシを作成、配布し、構成文化財の情報発信を行う。また、ターゲットを絞った周遊ルートの提案等も掲載し、認定に係る広報だけでなく観光資産としての魅力も発信する。(6言語: 日本語、英語、中国語[簡体、繁体]韓国語、タイ語)		
評価指標区分:	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数(自主事業分)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	パンフレットの配布数		
目標値:	平成 31 年度	10,000 部	⇒ 平成 34 年度 50,000 部
事業②:	日本遺産PR特設ホームページ整備事業		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 10,000千円	平成30年度: 5,000千円	平成31年度:
(積算)	作成業務委託 10,000千円	多言語作成業務委託 5,000千円	
事業概要:	ホームページを作成し、構成文化財の情報発信を行う。また、ターゲットを絞った周遊ルートの提案等も掲載し、認定に係る広報だけでなく観光資産としての魅力も発信する。(6言語: 日本語、英語、中国語[簡体、繁体]韓国語、タイ語)		
評価指標区分:	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	ホームページのアクセス数(年間)		
目標値:	平成 29 年度	10,000 回	⇒ 平成 34 年度 60,000 回
事業③:	「関門海峡・文化観光の水先案内人(仮)」育成・情報発信事業		
事業区分:	人材育成	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 6,000千円	平成30年度: 9,000千円	平成31年度: 9,000千円
(積算)	テキスト作成委託 5,000千円 育成講座200千円×5回=1,000千円	講座 200千円×10回=2,000千円 広報事業 2,000千円 バスツアー等委託 5,000千円	講座 200千円×10回=2,000千円 広報事業 2,000千円 バスツアー等委託 5,000千円
事業概要:	現存の観光ボランティアを含め広く公募を行い、日本遺産にかかる文化観光を担う人材を育成する講座を開催、人材を育成し、あわせて制度の周知とサービスを受けられる場所等の広報を行う。また、育成したガイドによる周遊バスツアー等を開催する。		
評価指標区分:	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	「関門海峡・文化観光の水先案内人(仮)」で実際に施設やイベント等で活動をしている人員数		
目標値:	平成 29 年度	10 人	⇒ 平成 34 年度 35 人
事業④:	日本遺産認定記念シンポジウムの開催		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 29 年度
補助金額:	平成29年度: 10,000千円	平成30年度: 0千円	平成31年度: 0千円
(積算)	10,000千円×1回		
事業概要:	日本遺産認定を記念し、広く国内でPRするために東京都内でシンポジウムを開催する。日本遺産PR大使を司会として招聘し、関門海峡地域出身の著名人を招いて開催することで多くの集客を獲得し効果的な普及啓発を行う。		
評価指標区分:	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	全国での日本遺産としての「関門海峡」の認知度(29年度の結果を100%として計上)		
目標値:	平成 29 年度	100 %	⇒ 平成 34 年度 150 %

事業⑤:	日本遺産普及促進のためのプレスツアー		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 6,000千円	平成30年度: 6,000千円	平成31年度: 6,000千円
(積算)	ツアー 10人×200千円 連携事業 4,000千円	ツアー 10人×200千円 連携事業 4,000千円	ツアー 10人×200千円 連携事業 4,000千円
事業概要:	国内外からの団体旅行ツアーやF I T誘致のために、旅行社を対象としたファミツアー及びマスメディア (TV・雑誌・パワーブロッガー等) を対象としたプレスツアーや、旅行社・マスメディアとの連携事業 (ペイドパブリシティ等) を実施し、ツアー商品の造成や個人旅行の増加を図る。		
評価指標区分:	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	観光客入り込み数		
目標値:	平成 29 年度	1,838 万人	⇒ 平成 34 年度 2,326 万人
事業⑥:	フィルムコンテストの開催と地域の子どもの文化交流事業		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 0千円	平成30年度: 6,000千円	平成31年度: 6,000千円
(積算)		開催経費 3,000千円 ワークショップ 600千円×5回	開催経費 3,000千円 ワークショップ 600千円×5回
事業概要:	認定された日本遺産のストーリーに沿った映像作品のコンテストを開催、地域の小中学生を対象に、映像作製のワークショップを開催し、コンテストの表彰式等のイベントで発表することにより、日本遺産認定を通じた地域の子ども同士の文化交流、文化的素養の醸成等を図る。		
評価指標区分:	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	YouTube等における動画の再生回数		
目標値:	平成 30 年度	10,000 回	⇒ 平成 34 年度 100,000 回
事業⑦:	「関門ノスタルジック海峡」グルメ発信事業		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 6,000千円	平成30年度: 3,000千円	平成31年度: 3,000千円
(積算)	動画作成 3,000千円 体験イベント 3,000千円	体験イベント 3,000千円	体験イベント 3,000千円
事業概要:	ふく(河豚)の薄造り体験、食べ方の動画PR(多言語)の作成。 バナナの叩き売り(購入・販売)体験(外国人対応へのために多言語での実演等の実施)。		
評価指標区分:	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	YouTube等における動画の再生回数		
目標値:	平成 29 年度	5,000 回	⇒ 平成 34 年度 50,000 回
事業⑧:	専門家によるマーケティング調査		
事業区分:	調査研究	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成29年度: 4,000千円	平成30年度: 3,000千円	平成31年度: 3,000千円
(積算)	調査業務委託 4,000千円 (全体量の把握の為に基礎調査)	調査業務委託 3,000千円 (ヒアリング調査等)	調査業務委託 3,000千円 (ビッグデータを活用した調査等)
事業概要:	各種媒体(新聞、雑誌、HP、SNS等)や、主要施設に既に整備されている公衆無線LANを活用した関門海峡関係のマーケティング調査を実施し、現在の関門海峡の捉われ方と、訪れる観光客や旅行関係業界の関門海峡へのニーズ等を調査分析する。		
評価指標区分:	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	調査結果を元に新たな観光施策の提案、新企画の構築		
目標値:	平成 29 年度	1 件	⇒ 平成 34 年度 5 件

事業⑨：	日本遺産構成文化財における案内板、解説板の設置		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度： 2,500千円	平成30年度： 2,500千円	平成31年度： 0千円
(積算)	25基×100千円	25基×100千円	
事業概要：	構成文化財に、日本遺産であることの説明やストーリー等を掲示する案内板や解説板の設置を行う。		
評価指標区分：	観光客の満足度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	来訪者に対するアンケート調査の結果 (29年度の結果を100%として計上)		
目標値：	平成 29 年度	100 %	⇒ 平成 34 年度 150 %
事業⑩：	日本遺産総合案内ブース設置事業		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額：	平成29年度： 0千円	平成30年度： 3,000千円	平成31年度： 4,000千円
(積算)		2ヶ所×1,500千円	2ヶ所×2,000千円 (供用開始予定の施設等内)
事業概要：	観光案内所等に日本遺産のブースを設けるほか、日本遺産の情報発信に必要な資料の展示公開を行うために関門海峡を一望できるような施設に日本遺産のブース等の整備を実施する。		
評価指標区分：	施設への入込み数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	各ブースへの合計来館者数		
目標値：	平成 30 年度	1,000 人	⇒ 平成 34 年度 10,000 人
事業⑪：	構成文化財のデジタルコンテンツによる演出事業		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度： 7,500千円	平成30年度： 7,500千円	平成31年度： 0千円
(積算)	整備1式 7,500千円×1ヶ所	整備1式 7,500千円×1ヶ所	
事業概要：	「長州藩下関前田台場跡」や「門司赤煉瓦ブレイス」等の構成文化財において、日本遺産のストーリーと構成文化財のロケーションに準拠した構成の360°パノラマ動画やVR技術を活用したデジタルコンテンツを制作し、公開することにより、構成文化財の魅力向上を図る。		
評価指標区分：	施設への入込み数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	コンテンツ再生ブースへの入込み数		
目標値：	平成 29 年度	3,000 人	⇒ 平成 34 年度 60,000 人

## 様式4 (別紙③)

## (7) その他事業

事業①:	J R 門司港駅保存修理事業		
機関・ 団体:	文化庁 :	事業期間:	平成 24 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要:	重要文化財建造物「門司港駅(旧門司駅)」の保存修理		
事業②:	旧門司三井倶楽部耐震診断及び耐震対策事業		
機関・ 団体:	文化庁 :	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 29 年度
事業概要:	構成文化財であり、公開施設の重要文化財建造物「旧門司三井倶楽部」の耐震診断、耐震対策		
事業③:	旧大阪商船耐震診断及び耐震対策事業		
機関・ 団体:	文化庁 :	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	構成文化財であり、公開施設の国登録文化財建造物「旧大阪商船」の耐震診断、耐震対策		
事業④:	関門を舞台にした海外映画、テレビドラマの誘致及びロケツーリズム推進事業 (地方創生推進交付金:「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業)		
機関・ 団体:	文化庁以外の省庁 :	内閣府	事業期間: 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	関門を舞台にした海外映画・テレビドラマの誘致の実施、ロケツーリズムの本格的実施		
事業⑤:	関門地域景観(夜景)魅力向上に係る各施設のライトアップ工事事業、PRイベント実施事業 (地方創生推進交付金:「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業)		
機関・ 団体:	文化庁以外の省庁 :	内閣府	事業期間: 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	ライトアップの充実による夜景景観の整備や、プロジェクションマッピングの実施		
事業⑥:	関門港におけるクルーズ客船の歓迎セレモニー等の開催による“おもてなし”の強化事業 (地方創生推進交付金:「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業)		
機関・ 団体:	文化庁以外の省庁 :	内閣府	事業期間: 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	関門港におけるクルーズ客船の歓迎セレモニー等を開催		
事業⑦:	関門地域の歴史的資産や文化を周遊観光の資源とするための5感に訴えるアプリケーションの開発事業 (地方創生推進交付金:「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業)		
機関・ 団体:	文化庁以外の省庁 :	内閣府	事業期間: 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	関門の歴史に加え、海峡の地理、気象等を加えたスマホアプリの開発		
事業⑦:	史跡前田砲台跡保存整備事業		
機関・ 団体:	市町村 :	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 36 年度
事業概要:	史跡前田砲台跡先行取得の起債償還		
事業⑨:	日本遺産パンフレットの増刷		
機関・ 団体:	自主事業 :	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	日本遺産のパンフレットの増刷・更新		
事業⑩:	補助金活用事業の自主事業としての継続		
機関・ 団体:	自主事業 :	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	補助金を活用した事業の自主事業としての継続		